

# HKFA

## Technical Report



北海道トレセンU-13,14エリートキャンプ  
北海道フューチャートレセンU-13・U-14キャンプ レポート

### 1 U-13 エリートキャンプ 報告

9月24日～25日の2日間、東雁来公園サッカー場（札幌市）で、北海道トレセンU-13エリートキャンプを実施しました。今回集まった選手達は、ナショナルトレセン前期（5月）と北海道トレセン夏季交流大会（8月）で活躍した選手達から選抜し、25名が参加しました。

まずは二日間のトレーニングの中で、自分自身の持っている力を100%出すこと。失敗を恐れず、全力で取り組むこと。チームメイトとコミュニケーションをとりながら、お互いを活かすプレーができるよう意識することなどを確認しました。

1日目は、『ゴール前の攻防』をテーマにトレーニングを行いました。

- W-up パス&コントロール～1vs1、シュート
- TR.1 2vs2～3vs3+GKゴール前の攻防
- TR.2 6vs6
- GAME 1 1vs1 1

まずは基本の質の追求を徹底することを目指しました。特に攻撃は、ゴール前での正確でスピードのあるプレー、タイミングの良いサポートなどを要求し、守備ではボールを奪うための判断、アプローチの質、ステップワークなど基本の徹底とボール状況による正しいポジションをとり続けることを目指しました。選手によっては質や意識のばらつきはありましたが、意識して繰り返すことで少しずつ成長が見られました。

2日目は、エリートキャンプのメンバーを2チームにグループ分けし、さらにフューチャーキャンプのメンバーを合わせた3チームでリーグ戦を行い、トレーニングの積み上げを確認しました。サッカーの本質を意識した中でゲームを行い、ゴールを奪うために攻撃の優先順位を考えながら、オンの質、オフの選手同士の関わり、動き出しのタイミングなどを要求しました。また、積極的にボールを奪いにいきつつも、意図を持って奪いにいくことの大切さについても伝えていきました。

選手同士が切磋琢磨して、新たな刺激の中で成長していく様子が見られたと思います。しかし、その一方で、ゲームの中で全体の認識は不足している場面も見られたため、今後は攻守に渡り全体像の中での的確な判断の下、正確でスピーディーなプレーが増えていくことを期待したいと思います。

2022年度北海道トレセンU-14エリートキャンプは、北海道5ブロックから選出された選手26名とスタッフ4名（砂原史朗（道央）／田中拓也；道北／GK担当；中野拓也；道央）が参加して、札幌サッカーアミューズメントパークで行いました。

土日2日間の日程で、初日午後のトレーニングと2日目午前のトレーニングマッチ（U-14フューチャー）の2セッションを通じて、攻守の目的を常に意識し、原理原則に基づいたプレーの追求を目指しました。

具体的には、一人一人が「ゴールを奪う・ボールを奪う・ゴールを守る」という目的を持ちながら、状況に応じてどのような最適解を出していくのかという判断の面と、on/offのプレー両面でボール状況や試合状況に応じて適切なスキルを発揮できているかという面で、個人への要求・グループ全体での確認と共有を行いました。

北海道を代表する選手が一度に集まる機会にプレーできることの意味を理解し、この環境への感謝をプレーで表現し、さらに自身の夢に向かって全国・世界を目指すきっかけになるように、メンタル面においても、スタッフも含めたグループとして求めていきました。

短い期間ではありましたが、選手たちがトレーニングマッチの中でハードワークを重ねながらも、自身のストロングを表現しようと必死にプレーする姿が光っていましたし、何より最後の集合写真時での自信と深めた笑顔が印象的でした。

今回の合宿開催に際し、ご理解ご協力を頂いた選手所属チームのスタッフ並びに保護者の皆様、本当にありがとうございました。



## 3

## U-13 フューチャートレセン報告

1日目午後のTRでは、攻守における「原理・原則」をテーマに行いました。W-upでは、ムーブメント・プレパレーションを行い、動きながら正確にテクニックを発揮することを求めながらパス&コントロール（スクエアパス）を行いました。ボール状況や味方を見ながら、タイミングよく動き出すことや、パスとコントロールの質を求めたことで、動きながらより丁寧に正確にプレーしようとする選手が多く見られました。

TRでは、「2対2+1F」と「3対3+2サーバー」を行いましたが、いずれのTRでも個人で積極的にボールを奪いに行くことから複数人が連携・連続して相手にプレッシャーをかけ続け、意図的にボールを奪うことを求め続けました。その中で、プレスを回避するために、ファーストタッチでスペースや相手の感じていないところに持ち出したり、ワンタッチで相手のギャップを突くプレーを判断して行うことを求めながらプレーしたことで、ボール状況や相手・味方の状況を判断して動きながらプレーする選手が多く見られました。

2日目午前のU13エリートとのゲームでは、守備の目的「ボールを奪う」「ゴールを守る」を意識してプレーすることができました。前線から個人で積極的にボールを奪いに行くことを、複数の選手が連続して行うことによって、相手へのプレッシャーとなりボールを意図的に高い位置で奪って攻撃につなげることができました。

攻撃では、優先順位を意識した攻撃から、相手の背後を突いてFWが抜け出す場面や、幅を使ったサイド攻撃で数的優位を作り、クロスからゴールをうかがうなど多くのチャンスを作り出すことができました。

一方で、相手が前から積極的に奪いに来た時や、ハイプレッシャーの中でミスが重なった時には、止める・蹴るの基本の徹底、相手を観て選択肢を持ちながらの判断、プレーを決断することが大切であると感じました。

最初のTRでは、選手同士のコミュニケーションが少なく、多少ぎこちなさや堅さが見受けられましたが、TRが進んでいくうちに仲間の動きにも慣れてきて、U13エリートとのゲームでは、特にポゼッションや個人・グループでインテンシティ高くボールを奪う意識、ゴール前の攻防で積極的なプレーが数多く見られました。

## 4

## U-14 フューチャートレセン報告

2022年度北海道フューチャートレセンU-14キャンプの1日目は、「ゴール前の攻防」をテーマにトレーニングを行いました。

トレーニング全体を通して、サッカーの原理原則の理解と質の追求に焦点を置く中で様々な判断基準を示しながらコーチングを行いました。

- W-up1 ランニング、ムーブメントプレパレーション、パス&コントロール
- W-up2 シュートドリル
- TR1 2vs1+GK ~ 2vs2+GK ~ 3vs3+GK (縦33m×横30m)
- TR2 5vs5+GK (縦50m×横40m)
- GAME 9vs9 (縦68m×横50m)

コーチングで選手に求めた主な点は下記の通り。

- ・守備側がゴールを守る意識が強すぎてボールを奪いにいけない。  
→ボールを奪いにいく判断基準を示し共通認識を持たせることで、1stDFの動き、全体での連動の質が向上した。
- ・攻撃側のサポート不足でゴールに迫ることができない。  
→攻撃の優先順位の意識と数的優位を生み出すサポートの動きを指摘、前方向へのパスを基準に追い越しやワンツートの動きが生まれた。
- ・攻守共に逆サイドの選手の関わりが持っていない。  
→攻撃時には背後を狙う、守備時には優先順位を考え、チームでボールを奪うための自分の立ち位置を指摘し、常に関わり続ける意識を伝えた。

2日目はエリートキャンプU-14メンバーとのGAMEを行い、前日伝えた判断基準を基に、「攻守共に常に全員が関わり続けよう、その中で自分の特徴を出していこう」というテーマで臨みました。成果として、高い位置からの守備を前提に、中盤の守備では1stDFの基準を観て、全体が良い準備をして積極的なチャレンジを行い、ボールを奪う成功回数が多くなりました。

攻撃では前線の選手がターゲットとなり、小グループでボールを運び、何度かシュートシーンを作り出すことができました。一方で、相手のハイプレスをかいくぐるパス&コントロールの質に課題が見られました。粘り強いディフェンスでボール奪取をしても、すぐにボールを失うシーンも多かったことが課題です。

この2日間で、選手たちの成長をはっきりと実感することができました。状況判断をして自信を持ってプレーをした時の姿はとても逞しく、長所を出せる選手もいました。今後も基礎技術の質の向上を図り、判断力に磨きをかけ、よりインテンシティの高いゲームで常に力を発揮できる選手へと成長することを期待したいと思います。



報告者  
技術委員会 U-14部会代表  
白崎 健策